

【学力向上フロンティアスクール事業中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	水沢市立水沢小学校									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	4	4	4	4	4	4	2	26	37	
児童数	149	146	141	150	144	152	6	888		

研究の概要

1. 研究主題

「自ら学ぶ力を育てる学習指導 確かな学びを育む指導の工夫を通して」

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1～6学年(国語) 児童に対する実態調査の結果から、校内研究として取り組み、児童に力を身に付けさせる必要があるととらえたため。 ・ 第1～6学年(算数) 学校として、当該教科に関する研究を継続してきたため。

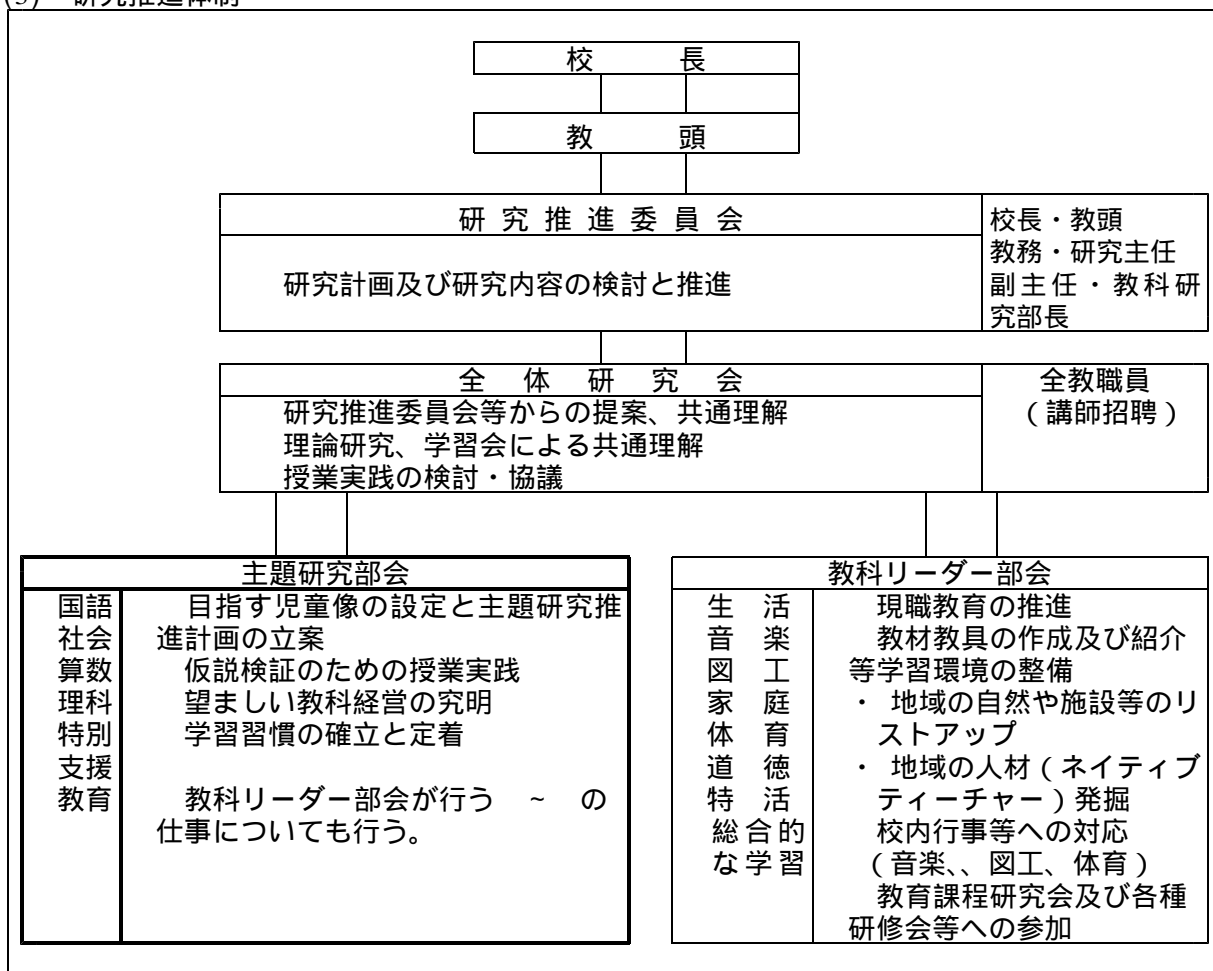
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「自ら学ぶ力を育てる学習指導 確かな学びを育む指導の工夫を通して」</p> <p>研究の見通し(仮説) 各教科の学習指導において、次の手立てを講じて確かな学びを育む指導を行えば、自ら学ぶ力を育てることができるであろう。 手立て1 児童が学習内容をしっかりと身に付け、他の学習や場面に生かすことができるような学習指導の充実を図る。 手立て2 児童の学びのよさを認め、それを児童に適切に返すことができるような評価活動の改善を図る。</p> <p>研究の内容・方法 1 研究の内容 (1) 国語科及び算数科を中心に、確かな学びを育む指導の工夫を通して自ら学ぶ力を育てる。 研究主題【「自ら学ぶ力を育てる学習指導」—確かな学びを育む指導の工夫を通して—】に基づき次のような実践を行う。 ア 児童が学習内容をしっかりと身に付け、他の学習や場面に生かすことができるような学習指導の充実 (ア) 単元及び1単位時間における学習指導過程の改善 (イ) 基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫 (ウ) 個に応じた指導を行うための指導方法や指導体制の工夫 イ 児童の学びのよさを認め、それを児童に適切に返すことができるような評価活動の改善 (ア) 児童が自分の学習を振り返り、次の課題へのステップとなるような自己評価活動及び相互評価活動の設定</p>
--------	---

	<p>(1) 単元全体において総合的に一人一人の変容を見取る評価の工夫</p> <p>(2) (1)の実践を支える内容として次のことを行う。</p> <p>ア 各教科における基礎的・基本的な指導内容の整理</p> <p>イ 評価規準表の活用と見直し</p> <p>ウ 基本的な学習訓練事項の検討とその定着を図ること</p> <p>エ 朝自習(うば杉タイム)の時間における漢字・計算の練習問題への取組や朝読書の充実</p> <p>(3) 教研式標準学力検査 CRT(目標基準準拠検査)結果及び授業等の様子により児童の実態把握を行う。</p> <p>2 研究の方法</p> <p>(1) 視点を明確にした授業研究及び日々の授業実践において児童の変容を把握する。</p> <p>ア 研究仮説を検証するために、研究授業ごとに視点を明確にする。そのために、事前研究会で授業仮説に基づいた手立てを検討する。さらに、事後研究会を設定し、手立ての有効性を明らかにする。</p> <p>イ 基本的な学習過程を確立したうえで、研究仮説に掲げる具体的な手立てを各教科ごとに工夫して授業を構成し、提案のある授業かつ創意と工夫のある授業づくりに努める。</p> <p>ウ 日常の授業も研究仮説の検証の場ととらえ、お互いの授業を見合う場や話し合う場を設定し、主題研究の日常化を図る。</p> <p>(2) 文献等をもとにした理論研究を行う。</p> <p>ア 先進校の紀要、専門書の文献、各種研修会での研究報告などから積極的に学び、授業に取り入れる。</p> <p>(3) 教研式標準学力検査 CRT(目標基準準拠検査)結果を分析し、平成14年度の結果との比較を行う。</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ 「自ら学ぶ力を育てる学習指導」</p> <p>研究の見通し 各教科の学習指導において、次の手立てを取るならば、自ら学ぶ力を育てることができるであろう。</p> <p>手立て1 個に応じた指導を行うための指導方法の追究 手立て2 一人一人のよさを生かし伸ばしていくことができるような評価の工夫</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 研究の内容</p> <p>ア 個に応じた指導を行うための指導方法の工夫</p> <p>(ア) 学年発達段階を考慮した指導形態(TT指導・少人数指導)や学習形態(コース別選択学習)の在り方</p> <p>(イ) 各教科の指導に生かすことのできるレディネステスト、事前・事後テストの作成と吟味</p> <p>(ウ) 学習内容の定着を図るための指導の在り方</p> <p>イ 一人一人を丁寧に見取り、指導に生かすことができるような評価の工夫</p> <p>(2) 研究の方法</p> <p>ア 研究の視点にそった授業実践 授業実践を通して、仮説の検証をし、指導の効果を確かめる。</p> <p>イ 文献法 主題にかかわる先行研究や文献による学習を通して、自ら学ぶ力を育てる指導法や評価の在り方を明らかにする。</p> <p>ウ 調査・観察法 意識調査や児童の活動場面における観察を通して、児童の実態を把握し、その変容の姿をとらえる。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- | |
|--|
| <p>(1) 国語科において、一人学びにおける言語活動を位置付けた授業実践を積み重ねることにより、児童一人一人に確かな力をつけるための学習指導過程（「読むこと」の指導）を明らかにすることができた。</p> <p>(2) 算数科において、学年の発達段階を考慮した指導形態について明らかにしたことにより、児童一人一人にきめ細かな指導を行うことができるようになった。</p> <p>(3) 児童一人一人の学習内容の定着度を把握すること及び各教科ごとの「単元別指導事項表」に基づいて教師が基礎的・基本的な内容をしっかりととらえて指導を進めることにより、指導の重点化を行うことができた。そのことにより、繰り返して指導することや児童一人一人の学習の様子を丁寧に見取ることができるようになった。</p> <p>(4) 学習活動の場を意図的・計画的に設定したことにより、学習への意欲の向上や自ら考え学ぼうとする様子が見られ、そのことが確かな学びをはぐくむことにつながっている。</p> |
|--|

2. 今後の課題

- | |
|---|
| <p>(1) 各教科の指導に生かすことのできるレディネステスト、事前・事後テストの吟味を行うこと</p> <p>(2) 習熟段階における学年の系統性を考慮した定着問題の作成を行い、その活用を図ること</p> <p>(3) 学校から保護者や地域に対して積極的に情報を発信し、取組についての理解を確かなものにしていくこと
 今後、工夫改善を図る点（来年度の計画）</p> <p>(1) 個に応じた指導を行うための教材の開発に取り組むこと</p> <p>(2) 授業を支える事項について検討を加えその達成に向けてさらに全校体制で取り組むこと
 （ ・ 基本的な学習訓練事項の定着 ・ 朝学習の内容の充実と体制の吟味 ・ 授業に結び付いた家庭学習のさせ方等）</p> |
|---|

学力等把握のための学校としての取組

- 1 CRTの実施(全学年)
 - (1) 検査対象学年及び検査教科
 - ア 第1～2学年 国語・算数
 - イ 第3～6学年 国語・社会・算数・理科
 - (2) 留意点
 - ア 各教科毎に分析と考察を行い、個に応じた指導の工夫に生かすようにする。
 - イ 実施結果に基づいた補充指導を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図るようにする。
- 2 授業実践の場における評価規準・判断基準に基づいた評価活動の実施
単元指導全体を通して総合的に児童の変容を見取るための評価補助簿の作成と活用
- 3 各教科における単元テストの実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 学校推進会議の開催
学校推進委員の参加による校内研究会を開催し、感想・意見等をいただき、研究推進に生かすようにした。(今年度学校推進委員……本校 PTA 副会長)
 - (1) 第1回推進会議(8月20日……研究経過報告会)
 - (2) 第2回推進会議(10月1日……授業研究会
2学年国語「大事なところに気をつけて『サンゴの海の生きものたち』」)
 - (3) 第3回推進会議(11月18日……授業研究会 第6学年算数「比」)
 - (4) 第4回推進会議(1月16日……今年度の成果と課題)
- 2 水沢教育事務所管内学力向上フロンティアスクール研究推進会議(12月9日)
- 3 岩手県学力向上フロンティアスクール研究推進会議(1月14日)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無